

環境への取り組み

静岡銀行は、基本理念「地域とともに夢と豊かさを広げます。」のもと、企業市民として、郷土の豊かな潤いのある自然環境を守り、より良く次の世代へと引き継いでいく責任があると考えています。環境問題への積極的な取り組みを、企業の社会的責任(CSR)・公共的使命であることはもちろんのこと、企業活動の存続にかかわる必要条件として位置づけ、「6つの基本方針」を定めています。

6つの基本方針

1	環境に関連する法規制、および業界行動指針など静岡銀行が同意するその他の要求事項を順守します。
2	省エネルギー、省資源、リサイクル活動を推進します。
3	地域の総合金融機関として、環境に配慮した商品・サービスの開発などを通じて、お取引先の利便性向上を目指し、また、地域社会の期待も踏まえ環境保全ひいては地球全体の環境保護に努めます。
4	企業活動のなかから、環境に影響を及ぼす要因を的確に把握し、環境保全に資する環境目的、および具体的な環境目標を定め、その実現をはかります。また、環境パフォーマンスを向上させるため定期的な監視とレビューを実施し、環境マネジメントシステムの継続的な改善と環境汚染の予防に努めます。
5	企業としての環境保全活動に取り組むことで、行員一人ひとりの環境問題に対するよりよい意識の高揚をはかるとともに、働き方改革によっても個人としての環境保全活動への取り組みを支援します。
6	この環境方針は文書化して、全行員および静岡銀行のために働く全ての人に周知し、一般にも公開します。



ISO14001
マネジメントシステム登録証

「ISO14001」の認証維持

静岡銀行グループでは、「しずぎん本部タワー」(本部各部およびグループ会社が入居する建物)を対象に、環境マネジメントシステムの国際規格である「ISO14001」の認証を取得しています(2002年5月より認証取得)。

環境目的

静岡銀行グループでは、環境マネジメントシステムに基づき、以下の通り「環境目的」を定め、環境保全につながる具体的な施策に取り組むとともに、PDCAサイクルのなかで継続的に改善を図っています。

■環境目的の概要(2017年度～2019年度)

1	しずぎん本部タワーの節電を推進します。
2	しずぎん本部タワーの紙使用量削減を推進します。
3	エコアイデアコンテストの実施により、環境負荷の軽減を図ります。
4	お客様の利便性向上と業務効率化を実現します。
5	多様な働き方の実現を図ります。

また、「環境問題への取組指針」として3項目を定め、地球温暖化防止等に向けた各種施策の方向性と位置づけを明確にすることで、取り組みを強化しています。

環境問題への取組指針

- 1 金融業務を通じた環境への対応
- 2 静岡銀行グループの環境負荷の低減
- 3 従業員の地域・家庭での環境への対応強化

取組指針1

金融業務を通じた環境への対応



静岡銀行グループの総合金融機能を発揮し、お客さまの環境保全への取り組みを、さまざまなかたちでサポートしています。

環境格付私募債「ECOBON(エコボン)」

環境保全に取り組む企業の資金調達をサポートするため、環境格付ランクに応じて金利を段階的に優遇する「環境格付私募債『ECOBON(エコボン)』※」を、静岡銀行独自の商品として提供しています。

※「ECOBON(エコボン)」は、英語のECO(エコ)、BOND(債券、絆)とフランス語のBON(いいね)を表現しています

エコサポート・ビジネスローン

「エコサポート・ビジネスローン」は、ISO14001やエコアクション21の認証、環境格付を取得しているお客さまの設備資金・運転資金に対応する融資商品で、環境負荷低減に取り組むお客さまを資金面でサポートしています。

経営コンサルティング

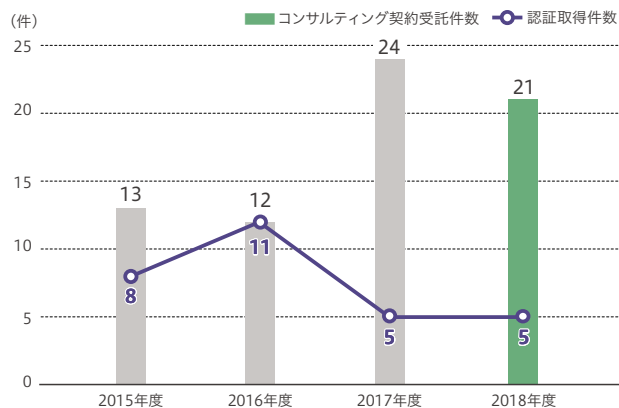
環境問題への積極的な取り組みは、企業が社会的な責任を果たすうえで、重要な経営課題の一つとなっています。グループ会社である静岡経営コンサルティング株式会社では、お客さまの環境マネジメントシステム認証（「ISO14001」など）取得のサポートや、CO₂排出量削減に関する「環境・温暖化コンサルティング」などのサービスを提供しています。

? 環境格付とは？

企業の環境に配慮した経営度合を評点化し、その得点に応じて金利を優遇するなどのお取引条件を設定するものです。

静岡銀行では、独自の環境格付システムにより、企業の環境経営度を幅広く評価できる体制を確立しています。

■環境マネジメントシステム認証取得コンサルティング実績



「21世紀金融行動原則」への署名

静岡銀行は「持続可能な社会の形成に向けた金融行動原則（21世紀金融行動原則）」に署名しています。

これは、環境・社会問題の解決に向けて、金融という側面から持続可能な社会の形成のために必要な責任と役割を果たすことを目的として、幅広い金融機関が自主的に参加して策定した行動指針で、静岡銀行は当初より起草委員として参加しています。

静岡銀行グループでは、地域との共存共栄を目指すため、環境・社会問題への取り組みをより一層強化し、地域社会の持続的な発展に寄与していきます。

21世紀金融行動原則 (抜粋)

- 自らが果たすべき責任と役割を認識し、予防的アプローチの視点も踏まえ、それぞれの事業を通じ持続可能な社会の形成に向けた最善の取り組みを推進する
- 環境産業に代表される「持続可能な社会の形成に寄与する産業」の発展と競争力の向上に資する金融商品・サービスの開発・提供を通じ、持続可能なグローバル社会の形成に貢献する
- 地域の振興と持続可能性の向上の視点に立ち、中小企業などの環境配慮や市民の環境意識の向上、災害への備えやコミュニティ活動をサポートする



環境関連商品のご提供

金融業務を通じた環境保全への取り組みとして、通帳を発行しないことで削減した費用の一部や、特定の定期預金の利息を「富士山基金」*に寄付しています。また、投資を通じて地球環境保全活動に参加したいというお客さまの声にお応えすべく、環境配慮型企業への投資に限定した投資信託などを取り扱っています。

しずぎんECO口座

通帳を発行しない「Web総合口座」とインターネット支店専用口座「Web Wallet」の2商品を「ECO口座」として提供しています。

通帳を発行しないことで削減した費用の一部を、「富士山基金」*へ寄付しています。

2018年度は、新規口座開設のうち約6割がECO口座となり、約190万円を富士山基金へ寄付しました。



定期預金「富士山定期預金」

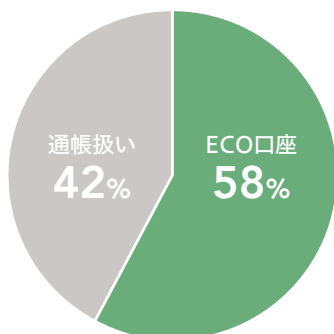
しずぎんインターネット支店で取り扱っている定期預金で、預金利息全額をお客さまに代わって静岡銀行が「富士山基金」*に寄付します。



■富士山基金への寄付金贈呈



■口座開設に占めるECO口座の割合 (2018年度)



投資信託「グリーン世銀債ファンド」

静銀ティーエム証券株式会社を取り扱う商品で、グリーンボンド(世界銀行が新興国の地球温暖化防止対策プロジェクトへの貸付金の原資とするために起債する債券)をはじめとする各国通貨建ての世界銀行債券(世銀債)を投資対象とした投資信託です。



*富士山基金

特定非営利活動法人富士山世界遺産国民会議が運営する基金で、世界遺産の富士山を未来に継承していくための保全活動やその啓発活動に使われています。





取組指針2 静岡銀行グループの環境負荷の低減

地球温暖化の原因といわれる温室効果ガス。その代表的なものがCO₂（二酸化炭素）です。静岡銀行グループでは、環境保全活動の一環として、地球温暖化防止に向けたCO₂排出量の削減に取り組んでいます。

紙使用量の削減

しずぎん本部タワーに、ペーパーレス会議運営システムや電子協議・報告システムを導入し、従来の紙文書をベースとしたワークスタイルから脱却し、業務の迅速化や生産性の向上を図るとともに、紙文書の発生を抑制し、環境負荷の軽減に取り組んでいます。

2018年度は、本部の文書発生量を2011年度実績比で▲48%削減しました。今後もさらなる削減に取り組めます。

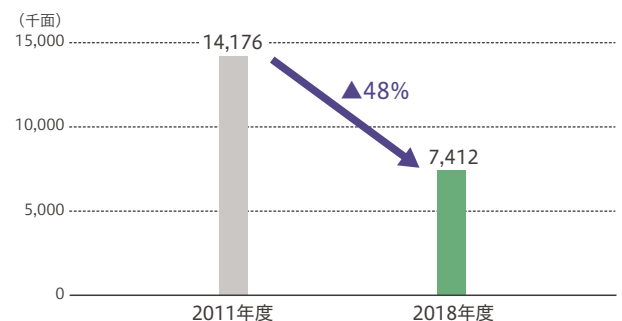
ペーパーレス会議運営システム

本部における会議は紙資料を使うことなく、タブレットに資料を表示して開催しています。

会議以外にも、本部内での打ち合わせなど、さまざまな場面で利用しており、紙使用量の削減に貢献しています。



■本部の文書発生量*



電子協議・報告システム

本部における協議書（稟議書）の作成から回覧、承認ならびにその後の文書管理までをシステム上で処理し、ペーパーレス化しています。

紙使用量の削減だけでなく、意思決定の迅速化や生産性向上にもつながっています。



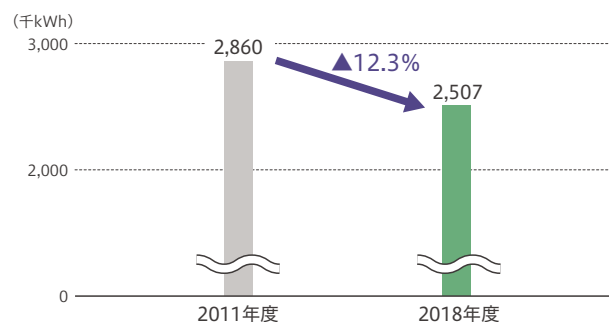
エネルギー使用量の削減（クールビズ&ウォームビズ）

地球温暖化防止のため、本部・グループ会社を中心に、室温を一定温度に設定してエネルギー使用量を削減するクールビズ、ウォームビズを実施しています。

2018年度は、しずぎん本部タワーの電力使用量の削減目標を、2015年度実績比▲3%と定めて取り組み、削減実績は▲12.3%となりました。



■しずぎん本部タワーの電力使用量



代表的な環境への取り組み



紙類のリサイクル

「しずぎん」紙のリサイクルシステムに基づき、オフィスで排出した紙類を、資源ゴミとして独自の搬送ルートで製紙会社に持ち込んでいます。持ち込んだ紙類は溶解し、段ボール原紙やトイレトペーパーとして100%リサイクルされています。

このほか、資料類の電子化を推進し、紙使用量の削減に取り組んでいます。

ゼロエミッション(排出ゼロ)への取り組み

営業店などが排出する事務機器の処分については、十数種類に分別し、可能な限り再資源化を図ることで、最終埋め立て処分をゼロにする「ゼロエミッション」方式を採用しています。

グリーン購入の実践

2002年より、お客さまにお渡しするノベルティグッズの選定について、再生紙や天然素材などを使用し、環境に配慮した商品を優先的に購入する「グリーン購入」を実践しています。ノベルティグッズの「グリーン購入比率」は100%となっています。

省エネ設備の導入

2007年10月以降、店舗の新築・改築に際しては、太陽光パネル付き外灯、LED照明など、環境に配慮した設備を導入しています。

2018年5月に新築した蛸塚支店では、LED照明を建物内すべての照明器具に採用したほか、エントランスの歩行者通路に太陽光パネル付き外灯を設置し、FSC認証*された木材を使用するなど、環境負荷の軽減に配慮しています。

静岡銀行では、店舗の新築・改築にあわせて、引き続き環境に配慮した設備の導入に取り組めます。



*FSC認証: 適切に管理された森林の木材製品であることの認証

支店のLED照明

エコカーの導入

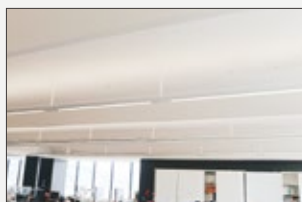
1997年から、営業車にハイブリッド車、電気自動車の導入を進めており、2019年6月末現在、93台を所有しています。

電気自動車

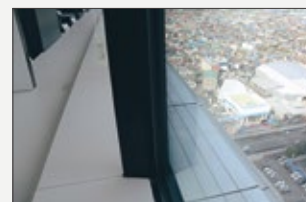


先進的な省エネ技術の導入

静岡銀行の本部機能やグループ会社が入居する「しずぎん本部タワー」では、明るさを自動調節するLED照明や、自然換気が可能な電動換気窓などを導入しています。



LED照明



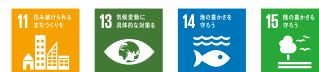
深い庇による日射遮蔽

高断熱化、日射遮蔽	断熱性の高いLow-e複層ガラスなどの採用により、窓面からの空調負荷の低減を図ります。深い庇による日射遮蔽により、さらなる省エネが可能となります
ハイブリッド空調(電動換気窓)	外気と室内の温湿度状態に応じて、電動換気窓の開閉が行えるため、自然換気を行いながら、冷房運転も可能となります
タスク&アンビエント照明	作業面の明るさをタスクライトにより効率よく確保し、天井照明(アンビエント照明)の明るさを抑えることにより省エネを図ります
LED照明	長寿命、高効率のLED照明により省エネを図ります



Low-e複層ガラス

取組指針3 従業員の地域・家庭での環境への対応強化



地球温暖化防止に関する意識調査の実施や、環境に関する情報発信を通じ、従業員の地域・家庭での環境問題への取り組みを強化しています。

「小さな親切」運動

「小さな親切」運動は、思いやりの「心の芽」を育てる運動です。“できる親切はみんなでしょう。それが社会の習慣となるように”をスローガンに、「小さな親切」の実践を呼びかけています。

「小さな親切」運動静岡県本部は、1997年2月に設立され、「明るく住みよい、心の通うあたたかな社会づくり」を目指して活動しています。設立当初から静岡銀行の役員が代表を務め、事務局をグループ会社の静岡総合サービス株式会社に設置するなど、静岡銀行グループ全体で積極的に運動に関わっています。

2018年度末の会員数は、企業・団体・学校・個人合計で27,683人、このうち静岡銀行グループの会員は6,392人と、多くの従業員が活動に参加しています。



[2018年5月12日]
熱海市姫の沢公園の里山づくり

里山づくり(森林整備)

静岡県と協定を結ぶ「しずおか未来の森サポーター」として、また静岡県主催の「森づくり県民大作戦」に参加するNPO法人等の団体と連携して活動しています。2018年度は、43会場で会員2,250人（うち静岡銀行グループの会員は633人）が森林整備活動を行いました。

また、棚田オーナーとして参加した棚田保全活動は、静岡県内2会場で田植えと稲刈りを実施し、収穫物は、児童福祉施設など子どもたちのために寄付しています。

※会場数・会員数はのべによる総計です



[2018年6月3日]
浜松市天竜川中瀬緑地の清掃活動

クリーン作戦

静岡県内各地において、2018年度は181会場で会員7,148人（うち静岡銀行グループの会員2,791人）が参加しました。

クリーン作戦の一環として、福祉施設の奉仕活動を行い、33会場で517人が参加しました。奉仕活動は、各施設のご要望を伺い、館内や車いすの清掃、花壇の手入れなどを行っています。また、車いすのほか、施設利用者や介護者の必要となるものを贈呈しています。

※会場数・会員数はのべによる総計です

公益信託しずぎんふるさと環境保全基金

静岡県内で環境保全に取り組んでいる個人や団体などに、「公益信託しずぎんふるさと環境保全基金」を通じて助成金を支給しています。2018年度は、15先に対し合計300万円の助成を行いました。これにより、1993年の基金設立以来、助成先はのべ586先、助成金の総額は7,520万円となりました。

2018年度助成先

東部地区	環境整備「森と竹で健康クラブ」 (山林の間伐・植林、竹林の管理活動)	ほか7先
中部地区	静岡・海辺づくりの会 (静岡海岸の自然環境保全活動)	ほか2先
西部地区	ひょうたん池自然を考えよう会 (池周辺の護岸補修活動)	ほか3先